



VF・VE検査／専門的な嚥下訓練に頼らなくても実践できる

認知症・脳血管障害の 摂食嚥下障害への 残存機能を生かしたアプローチ



※講義時間:270分

再配信

ポイント

セミナー聴講者よりいただいた下記の声を反映しております。

- 姿勢／認知症の人の評価／食事形態の選定
- 何をしても改善しないケース
- 誤嚥を繰り返すケース
- どうやっても食べてもらえないケース
- 臨床で行き詰るケース

岩山和史氏

フリーランス 歯科医師
(日本老年歯科医学会認定・
摂食機能療法専門歯科医師)

2003年大阪歯科大学卒業／2007年同大学院修了、博士(歯学)を取得／
病院、施設、在宅の現場で、摂食嚥下診療やNSTに従事／日本老年歯科医
学会認定医・摂食機能療法専門歯科医師／日本摂食嚥下リハビリテー
ション認定士／大阪歯科大学大学院講師(非常勤)

録画配信

[視聴期間]

オンライン

約2週間

23年9/13(水)から
視聴可能になります。

※申込締切:23年12/6(水)

受講料
(税・送料込)

一般 13,000円 会員 10,000円

※教材:PDFテキスト付(ダウンロード、プリントアウト可)
冊子テキスト(62頁)ご希望の方は別途2,000円

プログラム

1. 食べるための3つの機能
～5期モデルを使わずシンプルに解説～
①口の機能 ②認知機能 ③のどの機能
2. このような方には要注意～3つの危険なサイン～
①舌の汚れ ②溜め込み ③ムセ・痰がらみ
3. 見る、聞く、考える、3つのカンタン評価法
①口の評価 ②認知の評価 ③のどの評価

※頸部聴診の実技体験をしていただけます。水分、ゼリー、
固形物(おかき)などをご用意いただき、視聴ください。
また、聴診器をお持ちの方はご用意ください。
4. 摂食嚥下障害のホントの原因
実は加齢変化は関係ない!?
2大原因(認知症・脳血管疾患)の理解と疾患別の特徴
5. リハビリテーション～残存機能を引き出すアプローチ～
●口へのアプローチ(食事調整の原則など)
●認知機能へのアプローチ(食事ケアによるかわり方)
●のどへのアプローチ(姿勢調整のコツなど)
●疾患別のアプローチ、義歯についての考え方
【症例提示・症例検討】
6. 経口摂取の限界についていつまで経口摂取を
頑張るべきか!? 栄養サポートの考え方
7. 質問 配信期間中にメールで受け付けます。
講師に確認のうえご質問者にメールで回答いたします。

このセミナーはホームページからのみの受け付けとなります▶

日総研 17059

検索

関連雑誌

Web教材+隔月刊誌(定期刊行物・会員制)

認知症看護と看取りの実践・教育に!

臨床 老年看護

B5判 96頁
入会金 3,000円
年間購読料
18,900円(共に税込)

今
後
の
特
集

- エンドオブライフケアについて考える[9-10月号]
- 高齢男性に多い疾患の知識と対応[9-10月号]
- コミュニケーション能力を高める[9-10月号]
- 認知症の行動・心理症状の治療と対応[11-12月号]
- 高齢者糖尿病の知識とケア[11-12月号]
- 高齢者の尊厳について考える[11-12月号]

日総研 接遇大賞

優れたサービス
取り組みを表彰

応募は9月30日まで。発表は11月。

取り組み事例の紹介記事はこちら

接遇大賞

検索

学費の最大70%が給付される 専門実践教育訓練給付金指定講座

厚生労働大臣指定 一般財団法人 日本総合研究所

社会福祉士養成所 通信課程

日総研 社会福祉士

検索

お問合せ

TEL: 0120-054977

URL: www.nissoken.com

日総研

検索